

平成18年度地域文化演習・地域文化調査法・巡検・地域環境演習・地域環境調査法の調査地域一覧

地域文化演習

記号	教員	調査地域	期間	内容	曜日・時限
A	高橋健太郎	群馬県川場村	9月に3泊4日を予定	前期:文献講読、世田谷区役所での資料収集 後期:農山村地域の生活と産業や都市・農村交流についての調査を行い、レポートを作成する。	火・3
B	橋詰直道	群馬県長野原町(詳細は4月に決定する)	7月上旬または9月下旬～10月上旬(2泊3日)	前期は地理学論文をレビューし発表してもらう。後期は現地調査を行い、その結果を報告し、最終的にはまとめる。2/3以上出席しないと	月・5

地域文化調査法

A	土谷敏治	鉄道・軌道等の公共交通機関を有する地方都市の中から、受講者の希望をもとに全員で議論しながら決定する。北海道、青森県、秋田県、愛知県、岐阜県、岡山県、高知県の都市が候補である。	10月10日～10月14日(4泊5日)を予定	公共交通機関の現状と課題について事業者・行政担当者から現場の声を聞くとともに、現地の見学を実施する。さらに、各自の研究テーマに従って、文献の講読、調査テーマの設定、調査計画策定、現地調査、報告書作成を行う。	火・5
D	小田匡保	宮城県宮城郡松島町	9月下旬または10月上旬(3泊4日または4泊5日)	伝統的観光地における観光産業と観光客の調査	水・5
E	佐藤哲夫	沖縄県那覇市	10月31日～11月3日(3泊4日)	那覇市内の地区の人口変化と市街地の変貌	火・3
F	須山 聡	奄美大島	7月第1週(4泊5日)	都市・村落・土地利用・景観などに関する地域調査	水・4

巡検

A	櫻井明久	南伊豆沿岸と駒澤大学周辺	南伊豆については5月31日(水)～6月2日(金)(2泊3日) 駒澤大学周辺については、その後の授業時間内	野外観察の方法と土地利用図の作成(南伊豆の沿岸集落における生業の変化と、駒澤大学周辺の環境変化)	水・5(前期)
D	田中 靖	フォッサ・マグナ	受講者と相談のうえ決定(1泊2日程度)	糸魚川―静岡構造線を縦断	火・3(前期)

地域環境演習

A	早船元峰	埼玉県川口市安行(日帰り)他、関東近県(相談して決める)	未定(2泊3日程度)	みどりのまちづくりの手法と実践、写真撮影技法、傾斜地の土地利用と環境保全	木・4
B	高木正博	甲府盆地周辺	10月9日～10月11日(2泊3日)を予定	富士川の治水	金・5

地域環境調査法

B	江口 卓	鹿児島県屋久島	10月中旬～下旬(3泊4日)	前期は、屋久島の気候の特徴を、気候データの解析により明らかにする。後期は、その結果と現地調査をもとに、気候と植生の関係について分析する。	木・2
D	長沼信夫	鹿児島県喜界島	7月3日～7月7日(4泊5日)	島嶼における自然と生活環境の現状	月・2
F	平井幸弘	北海道オホーツク海沿岸のサロマ湖、能取湖、網走湖周辺	9月下旬に3泊4日(または4泊5日)を予定。詳細は相談して決める。	左記地域のラグーン(海跡湖)を取り上げ、周辺地域を含めた開発と近年の環境問題について現地調査を行い、レポートにまとめる	木・1